

内閣総理大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	西北プライウッド株式会社 株式会社イトーキ
	所在地
	宮城県石巻市、宮城県仙台市
受賞テーマ	
Econifa +RE (エコニファ アールイー) ～みどりの復興支援プロジェクト～ ※東日本大震災の被災木を合板へ甦らせ、テーブル等の商品化を図りました。	

同社は、東日本大震災の津波被害を受けた樹木をテーブル、スツールなどの家具に加工し、復興合板を使用した「復興合板家具」として販売している。

東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸部で津波をかぶった防風林や防潮林等の海岸林が発生した。これら津波被害を受けた樹木は、仙台湾周辺だけでおよそ 1,750ha あり、いずれは立ち枯れ、倒木の危険があるため、伐採が進んでいる。被災木を再利用せずにガレキにすると処理量の増加につながるため、これらを活用する方法が早急に必要となった。

そこで、合板製造企業である西北プライウッドと家具製造企業であるイトーキが連携し、西北プライウッドで被災木を原材料として調達し、合板に加工した後、イトーキでテーブル、スツールなどの家具に加工し、「復興合板家具」として販売する活動を 2011 年 10 月から行っている。

自身も被災した西北プライウッドは、2001 年にグループ会社のセイホク環境テクノセンターを設立し、「地球環境の保護」と「住環境の充実」を目指して資源循環システムを確立している。

同社は「木の 300%活用～1本の価値を最大化～」を実施しており、この精神のもと、東日本大震災で被災した海岸林についてもリサイクルに挑戦。試作を重ね、強度、品質面で JAS 規格と放射能試験の数値をクリアした。

復興合板家具には被災マツやスギを活用した合板を表す焼印を押してあり、家具としてオフィスや各種イベントの飲食ブース等で利用されることで、被災木利用への意識啓発につなげている。

2011 年 11 月から「東日本大震災復興支援日比谷ライブ&マルシェ 2011」、「エコプロダクト 2011」、「みなと森と水の会議 2012」などで使用した。さらに、家具として長く使うことにより二酸化炭素の固定化による地球温暖化防止にも貢献している。



エコプロダクツ 2011 飲食ブース



港区森と水会議 2012 ポスター展示

■復興合板ができるまでの工程

家具の素材である復興合板は、宮城県沿岸などで材料入手、生産されている。



①伐採現場（大量の被災松が発生）



②被災木を分別管理されている。



③被災木をスライス（切削）



④単板を積層加工し、合板に仕立てる



復興合板家具（写真は、テーブルの天板、スツールの座板に被災木を利用）



復興合板家具を示す焼印部分の拡大

製品については、原木時、加工時の放射能測定を実施し、安全性を確認している。



原木入荷時の放射能測定



加工後の放射能測定